

壮瞥町

船越雄人

1. 概要

1.1 地名の由来

アイヌ語で「滝の川」を意味する「ソーベツ」より転化し「壮瞥」となった。

1.2 歴史

壮瞥町は、明治 12 年岩手県人の移住により開拓の鋤が入れられ、郷土の建設が始まる。明治 32 年 8 月、西紋鼈・長流・有珠の 3 村から分離独立して、戸数 520 戸、人口 4260 人をもって壮瞥村戸長役場が設置される。その後、大正 4 年 4 月、2 級町村制が施行され、徳舜別村（現大滝村）を分村となって、昭和 14 年 4 月、1 級町村制施行。昭和 37 年 1 月、町村施行となり現在に至る。

1.3 自然環境

1.3.1 位置・地勢

本町は北海道の南西部に位置し、東はオロフレ山系を境とし、伊達市大滝区、白老町に接し、南部は登別市と伊達市に、また西は洞爺湖をはさんで洞爺湖町に接している。

町の中央を東から西へ長流川が貫流し、本町はこの流域の平坦地と、その周辺の丘陵地に大きく分けることができる。東経 141 度 1 分 23 秒～140 度 49 分北緯 42 度 30 分 12 秒～42 度 38 分 56 秒に位置し面積は 205.04 平方 km である。

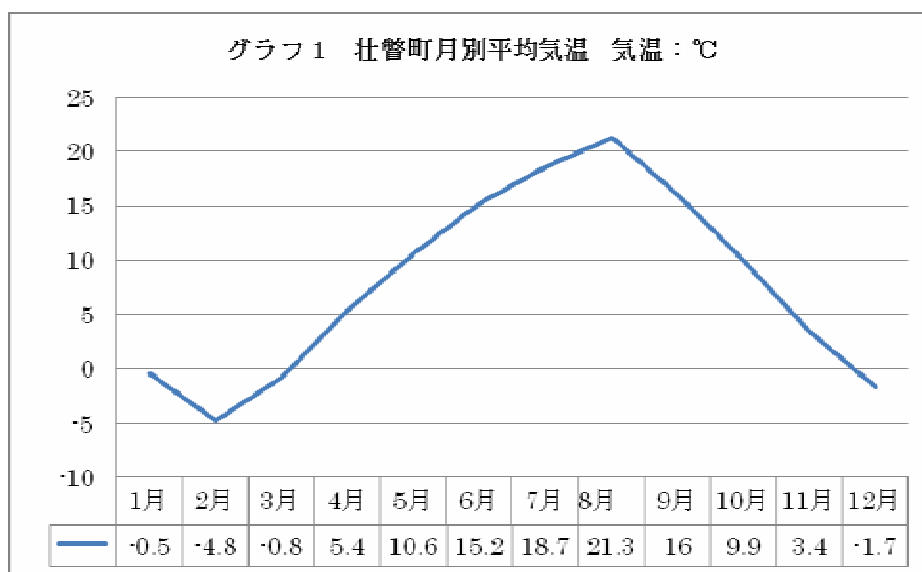
図 1 壮瞥町の位置



出典 壮瞥町 HP

1.3.2 気候

内浦湾をはるかに望む本町は、北海道の湘南地方と呼ばれる温暖な地に属し、夏は涼しく、冬は温かで、道内でも快適な地と言える。夏は南西風、冬は北西風が多く、気温は年平均 8.1 度、冬は－2 度程度で、積雪は平坦地で 50 cm 前後。



データ 壮瞥町 HP

1.3.3 火山

有珠山は今から 1 万 5 千年～2 万年前に洞爺カルデラの南壁に火山活動をはじめ、富士山のような形をした円錐形成層火山をつくり、その後 7～8 千年前に山頂部分が大崩壊を起こし現在の外輪山の原型がかたちづくられた。

この活動の後、有珠山は数千年の長い眠りについていていたが 1663 年に突然の大噴火をおこした。休止期間が長かったせいか、噴出した火山碎屑物（火砕物）の量が非常に多く、白老町でも厚さ 1m もの軽石が積もった。

この有史以来最初で最大の噴火以降、有珠山は今日までに 7 回の噴火をくり返していくつもの溶岩ドームをつくっていき、最近の噴火（1977～1978）では火口原に有珠新山（海拔 667.3m）を誕生させた。

図 2 壮瞥町付近の火山

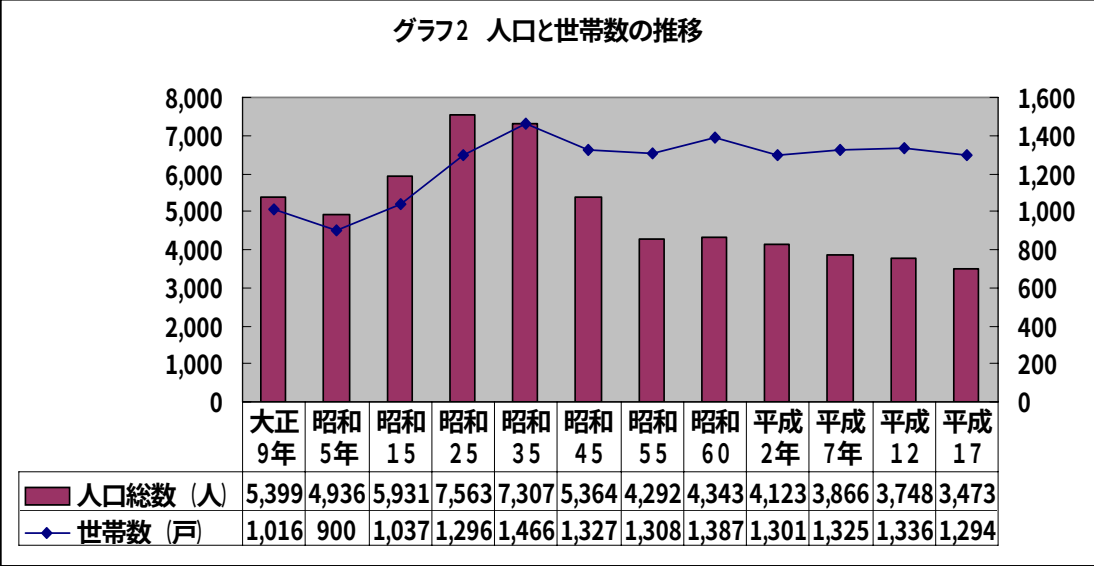


出典 壮瞥町 HP

2 人口・世帯数

昭和35年に7,307人あった人口は、鉱山の閉山、国鉄・電力会社等の合理化、農業では山間部等立地条件に恵まれない零細農家の都市部への流出等により、5年ごとに約1,000人規模の人口減少があり、20年後の昭和55年には、3,015人減少し、4,292人となった。町では集落の整備として、鉱山地区の全戸を町の中心である滝之町地区に移転させ、また過疎対策として、種々施策を実施し、昭和50年以降人口減少率は鈍化した。昭和55年から

昭和60年にかけては、若干の増加をみたが、産業動向や経済、情報の一極集中傾向が顕著であったバブル景気時、昭和60年から平成2年にかけては再び減少に転じ、その後は緩やかに減少している。



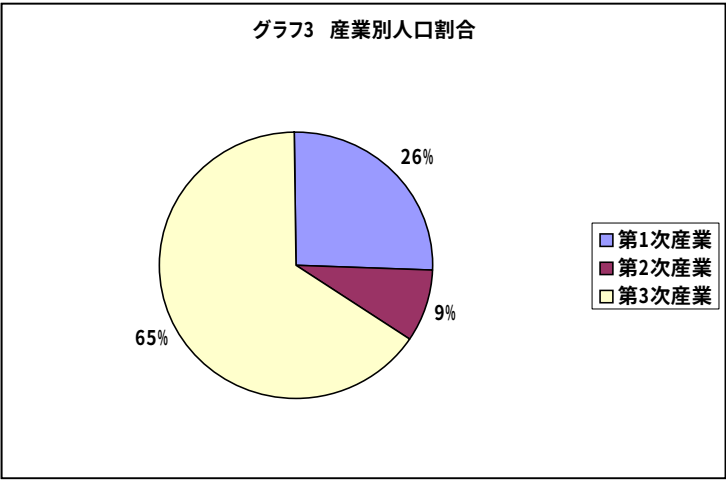
データ 壮瞥町 HP

3 産業

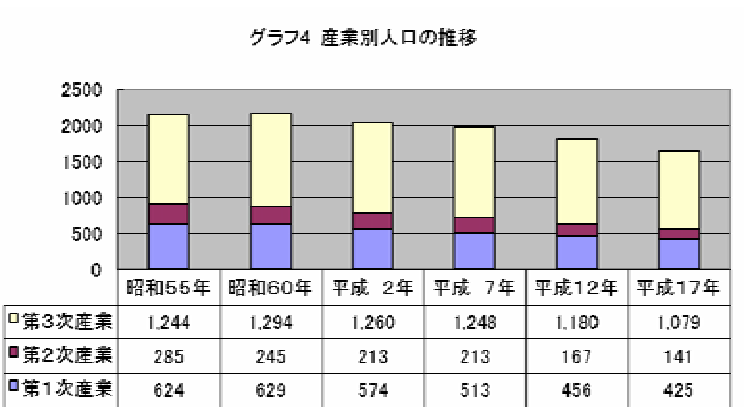
3.1 産業別人口

壮瞥町は、長流川流域の平坦地を中心とした農業を主産業として発展していたが、近年の社会経済の進展に伴い、洞爺湖をはじめ有珠山、昭和新山など景勝地を有し、町内各地の温泉をおおいに活用した観光産業が大きなウエイトを占めている。また、農業と連携した観光客誘致のための取り組み、観光果樹園化も進んでいる。

かつては地下資源にも恵まれ、硫黄、硫化鉄鉱等が採掘され、第2次産業が隆盛を極めた時期もあったが、これら鉱山はすべて閉山となった。



データ 壮瞥町 HP



データ 壮瞥町 HP

3.2 農業

壮瞥町は、温暖な気候や土地資源を生かし、高級菜豆を中心とした畑作物のほか、稲作やりんご、おうとう、ぶどう等の果樹、地熱エネルギーを利用した施設園芸など多様な農業に取り組んでおり、農業生産基盤や流通体制の整備、農産物の高付加価値化の推進などを行っていた。しかしながら、国内外における産地間競争の激化、農産物価格の低迷、担い手不足など農業・農村を取り巻く環境が厳しさを増している中、本町の農業・農村が今後とも安定的に発展するためには、クリーン農業の推進による消費者や実需者の求めるニーズに対応した安全・安心で良質な農産物の生産、大福豆などの付加価値の向上等による特産品の振興、昭和新山や洞爺湖温泉などの恵まれた観光資源や交流人口等を活かした観光農業・体験農業等の推進など、地域の特色や経営条件を生かした収益性の高い地域農業の確立が急務となっている。

表3 壮瞥町の農作物

作物	水稻	小麦	ばれいしょ	いんげん	てんさい	牧草計
作付面積 (ha)	131	123	40	156	55	373
収穫量 (t)	669	613	1,200	352	2,780	13,500

3.3 果樹栽培

壮瞥町に初めてりんごの木が植えられたのは、開墾間もない明治9年頃で、昭和40年頃までは4.5軒しかなかった果樹農家は、いまでは40軒前後に増え、道内有数のくだもの生産地として知られるようになった。くだもの村のメンバーで開園100年になる老舗の「浜田園」には1890年頃の入植当時に植えられたと言われる壮瞥町最古のりんごの木が現存している。

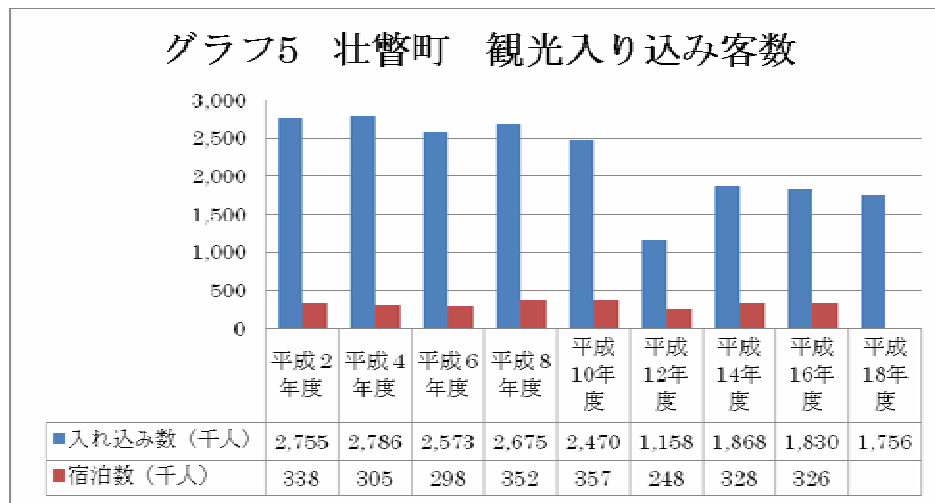
図4 壮瞥町のりんご



出典 壮瞥町 HP

4 観光

壮瞥町は近年の社会経済の進展に伴い、洞爺湖をはじめ有珠山、昭和新山など景勝地を有し、町内各地の温泉をおおいに活用した観光産業が大きなウエイトを占めている。また、農業と連携した観光客誘致のための取り組み、観光果樹園化も進んでいる。



データ 壮瞥町 HP

4.1 観光スポット

4.1.1 昭和新山

昭和 18 年の噴火活動で麦畑が隆起してできた昭和新山。60 年以上を経た今でも大地のエネルギーを体感できる。駐車場周辺には、クマ牧場、ガラス館、有珠山ロープウェイ、三松正夫記念館などの見学施設やレストラン、土産店も多数点在する。



図 4 昭和新山

4.1.2 洞爺湖

豊かな自然が織りなす鮮やかな四季。訪れる人々を魅了する洞爺湖には温泉、火山、自然など魅力満載。

出典 壮瞥町観光情報 HP

図 5 洞爺湖



4.1.3 昭和新山国際雪合戦

1987 年 8 月、壮瞥町の若者グループ（商業・観光・農業・公務員）が、東南アジアからの観光客が雪と遊ぶ姿からヒン

出典 壮瞥町観光情報 HP

トを得て、「昔の雪遊びの楽しさを現代に再生しよう」と、スポーツとしてルール化した昭和新山国際雪合戦を誕生させた。翌年には国際ルールを完成させ、1989年世界で初めての第1回国際雪合戦の開催を実現した。年々、参加チーム、参加国数が増え、現在ではフィンランドで欧州選手権が行われるほど、競技人口は世界へと広がりを見せている。

図6 昭和新山国際雪合戦



出典 壮瞥町観光情報 HP

参考 HP

- ・壮瞥町 HP(http://www.town.sobetsu.lg.jp/cgi-bin/odb-get.exe?wit_template=AM020000)
- ・壮瞥町観光情報 HP(<http://www.town.sobetsu.lg.jp/kanko/index.html>)
- ・Wikipedia(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A3%AE%E7%9E%A5%E7%94%BA>)